

# 平成25年度学校自己評価システムシート (県立庄和高等学校)

目指す学校像	地域に根ざし、生徒それぞれの夢を育て実現させる学校
--------	---------------------------

重点目標	1 メリハリのある生徒指導の実現 2 伸ばす指導による学力向上 3 変化に対応する進路指導の実現 4 生徒の社会性と向上心の育成
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 1 月 3 0 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	生徒の問題行動は多発はしていないが、基本的生活習慣が身につけていない生徒もいる。また整容面や自転車通学のマナーについても課題が多い。生徒の通学時の安全を確保し、社会で活躍する人材を育成するためにも規範意識を高め、組織的に生徒指導に取り組む必要がある。	メリハリのある生徒指導の実現	①見逃さない・見過ごさない姿勢で整容指導を継続し、チャイム着席、授業規律の徹底等基本的生活習慣の定着に学校全体で組織的に取り組む。 ②考査日や特編日を中心に下校指導を強化し、交通マナーの遵守を図る。 ③他高校と積極的に交流し、切磋琢磨する場を提供する。 ④日々努力を続ける生徒を積極的に評価し、1回以上表彰する。	①登校指導、整容指導を継続し、チャイム着席、授業前整容等、授業規律は徹底したか。遅刻件数は減少したか。 ②自転車の二人乗りや傘さし等の指導件数や苦情件数は減少したか。 ③他高校から刺激を受け、学校生活を確認することができたか。 ④縁の下の力持ち的な生徒を評価することができたか。	①毎日の登校指導、継続的な整容指導を学校全体で組織的に行い、整容は改善した。遅刻件数については学年によりばらつきがあり、横ばいであった。 ②下校指導を強化した結果、苦情件数は減少した。 ③部活動単位での交流が図られた。 ④学校祭で陰ながら努力した生徒2名を評価し表彰した。	A	・次年度も引き続き登校指導、整容指導を粘り強く継続する。遅刻件数減少に向けて組織的に取り組む。 ・他高校と交流する機会を増やし、互いに刺激を受けながら、充実した学生生活を送ることができる場面を検討する。 ・日々努力を続ける生徒の表彰を引き続き実施する。
2	授業は成立しているが学びへの姿勢は不十分である。家庭学習の習慣のない生徒も多く潜在的な能力を十分に引き出せていない。協調学習をはじめとする指導方法の工夫改善を図り、指導力を向上させ、生徒の実態に即した授業を展開する必要があると同時に学力の伸長を客観的に測定することも不可欠である。	伸ばす指導による学力向上	①協調学習などの授業研究を進め、授業公開等、質の高い授業づくりを行う。 ②英検、漢検、数検など全員参加の検定試験を1回以上実施する。 ③補習授業、朝テストを導入し、基礎学力の定着を図る。 ④外部テストを導入し、絶対的・相対的な学力の伸びを測定する。	①新たな授業展開の研究が取り込まれたか。 ②全員参加の検定試験を実施できたか。 ③統一テストの結果は向上したか。 ④外部テストのデータを蓄積し分析することはできたか。	①6名の教員が協調学習の手法を用いた公開授業・研究授業を行った。さらに、教員全員参加の研修会を実施し、指導力の向上を図った。 ②来年度から1,2学年が英検・漢検の全員受験を実施する。 ③補習授業、朝テストを各学年単位で継続して実施した。結果の検証は実施できなかった。 ④来年度から学力の伸びを可視化するための全国模試を年2回実施する。	B	・今年度の研修を活かし、教員個々の指導力を向上させ、質の高い授業づくりを目指す。 ・全員参加の検定試験を実施することで、定期的な目標を設定させ、目標達成により自信と達成感を得させる。 ・外部テストを実施し、結果をフィードバックする。その結果を学習指導に活かす。
3	進学から就職まで多様な進路希望にきめ細かく対応しているが、近年急速に増加してきた四年制大学など進学希望者に対する指導の充実が求められている。保護者も含め進路意識を向上させるとともに、適切な進路指導体制を構築し、進学希望者のワンステップ上の進路実現が課題である。	変化に対応する進路指導の実現	①進路意識を向上させ、進路決定率95%以上を達成する。 ②就職者及び上級学校進学者の内定率や就職後の離職率を調査する。 ③企業経営者や外部有識者による教員研修を実施するとともに、保護者への啓発活動を積極的に行う。 ④最新の大学情報を収集・提供し、より適切な進学指導を行い、ワンステップ上の進路実現に挑戦する気運を高める。	①進路決定率95%、就職内定率100%は達成できたか。 ②内定率及び離職率を調査し、進路指導に活かすことができたか。 ③効果的な進路指導、意識啓発は行われたか。PTAとの連携を深め、啓発活動を実践することができたか。 ④最新の大学情報を収集・提供することができたか。	①現在、進路決定率は83.9%、就職内定率は100%である。 ②就職内定率は100%であるがその後の離職率等の調査は実施できなかった。 ③保護者対象の進路見学会を実施し25名が参加した。大学・専門学校の情報を収集した。 ④教員が進路研修会・説明会に参加し、情報収集に努めた。またそこで得た情報を進路だより等で発信し意識の醸成を図った。	B	・進学希望者のワンステップ上の進路実現が課題である。質の高い進路指導に向けて教員のスキルアップが必要である。 ・2学年及び保護者対象の進路見学会の内容を検討・充実させる必要がある。 ・就職希望者に対して地元ロータリークラブや有識者との等との連携を図り、面接指導の実施を検討する。
4	素直で明るい生徒が多い一方で、向上心やリーダーシップに欠ける傾向があるため、小・中学校や地域との連携を更に強化し、交流を深め、社会性を育成する必要がある。部活動や生徒会活動を活性化し、他校や地域との世代を超えた交流の中からリーダー層を育成することも課題である。	生徒の社会性と向上心の育成	①生徒会活動や部活動を活性化させ、地域行事に積極的に参加し、リーダーの育成を図る。 ②在校生との懇談会等、生徒主体の学校説明会を実施し、10%以上参加者数を増加させる。 ③HPやメディアを活用し、生徒の活動情報を発信する。 ④授業や体育祭等を保護者や地域に公開し、緊密な相互関係をつくる。	①地域との交流回数を増加することができたか。 ②学校説明会の中学生、保護者の参加数は増加したか。 ③HPの更新は月3回以上行われたか。メディアへの情報提供は行われたか。 ④公開授業は行われたか。保護者の参加状況はどうか。	①生徒会や部活動を中心に地元小中学校や地域のイベント等に積極的に参加し、交流回数は増加した。 ②卒業生からの話を取り入れる等新たな取り組みを実施し、学校説明会の参加者は34%増加した。 ③学校活動の様子を随時HPにアップした。また、メディアにも積極的に情報提供を行った。 ④公開授業を実施したが保護者の参加状況は芳しくなかった。	A	・次年度も引き続き各種イベントに積極的に参加し、コミュニケーション能力やリーダー層の育成を図る。 ・学校説明会の内容を検討し、参加者数を増加させる。 ・定期的にHPを更新し、メディアにも積極的に情報提供する。 ・授業や体育祭等を公開し、地域、保護者との関係をより密にし、開かれた学校づくりを推進する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成26年1月30日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の成果がでている。中学校にも変わってきていると伝わっている。(評議員)</li> <li>・制服の着こなしも良くなり、地域からも「変わった」と言われるようになった。また、自転車の二人乗りも見かけなくなった。(保護者)引き続き継続した指導が必要である。(評議員)評価は「A」とする。</li> <li>・補習授業の実施について感謝している。今後も継続をお願いする。(保護者)</li> <li>・来年度から実施する習熟度別クラス設定、英検漢検の全員受験、学力の伸びを計る模試の成果に期待する。(評議員)評価は「B」とする。</li> <li>・家庭学習の時間が少ないのではないかと。ワンステップ上の進学先を目指して欲しい。(評議員)</li> <li>・将来やりたい仕事が決まれば、おのずとやるが見えてくる。早めに決定したほうがよい。(評議員)</li> <li>・一般受験をする生徒のための環境づくりをお願いしたい。(保護者)評価は「B」とする。</li> <li>・ボランティア活動や地域に根ざした交流等、高校生の地域に対する貢献度は高い。今後も続けて欲しい。(評議員)</li> <li>・学校の情報がより保護者に伝われば、子どもとの会話も増える。情報発信の方法を検討して欲しい。(保護者)評価は「A」とする。</li> </ul>	